

ソーシャル・キャピタルの世代間継承メカニズムの検討

研究代表者：要藤 正任

(京都大学経済研究所先端政策分析研究センター 特定准教授)

実施者・協力者： 京都大学経済研究所先端政策分析研究センター、和歌山大学経済学部、京都大学経営管理大学院、(一財)建設経済研究所、宮崎市商店街振興組合連合会、等

実施地域： 和歌山県和歌山市、宮崎県宮崎市、滋賀県長浜市、等

背景

エリアマネジメント活動(地域の価値を維持・向上させるための住民等による主体的な取り組み)の成功には多様な世代が参画することが不可欠。しかし、こうした取組みが十分に行われない、もしくは、ある一時期は盛り上がりつつも、世代間交流や後継者の確保が上手くいかず活動が尻すぼみになる例も多い。(「共有地の悲劇」を回避するような意思決定が円滑に行われていない)。

→ エリアマネジメント活動等が世代を超えて継続されるためには、「地域資源※」に対する共有意識(ソーシャル・キャピタル)が多世代間で共有・継承されることが必要。

※ 地域資源のイメージ: 街の住みやすさ、地域の活力、伝統行事、公共空間など、公共施設や景観などのハード的なものから地域の暮らしやすさなどソフト的なものを含めたもの。

プロジェクトが目指すもの

<目標>

ソーシャル・キャピタルが世代間で継承される要因を明らかにし、多世代共創活動の持続可能性を高めるための方策を提示

[短期的なアウトカム]

- 各地域のエリアマネジメント活動等に多様な世代が参加し、活動の持続可能性の確保のきっかけをつくる
- 他世代に対する互酬性や将来世代への利他性の意識を高めるきっかけをつくる

<主な評価指標>

調査検討から得られた知見を自治体関係者等にフィードバックし、その反応・評価を踏まえてアウトプットを精査

<明らかにしたいこと>

- ・ ソーシャル・キャピタルはどのように醸成されるのか？また、醸成されたソーシャル・キャピタルは世代間で継承することが可能か？
- ・ エリアマネジメント活動等が世代を超えて持続的に行われるためには何が必要か？その阻害要因は？
- ・ ソーシャル・キャピタルの世代間継承を促す要因、継承の妨げとなる要因は何か？また、世代間継承を促進するためには何が必要か？

<成果の活用イメージ>

行政、エリアマネジメント活動等地域における住民活動を担うリーダー、地域住民が本プロジェクトの成果を活用した取り組みを実践し、エリアマネジメント活動等への多世代参画や世代間継承を促進。

プロジェクトにおける持続可能性、多世代共創

- ・ 各世代が地域資源の価値向上や維持管理に資する活動等へ積極的に参画
- ・ これらの活動が次世代にも継承・継続
- ・ 将来世代の負担・便益等を考慮した意思決定の円滑化

→ 世代間のソーシャル・キャピタルの継承が円滑に行われ、ソーシャル・キャピタルの継承が多世代共創活動の持続と新たな多世代共創活動を生むという好循環の実現



これまでにわかったこと・課題

リサーチ・クエスチョン解明のための仮説(例)

- ・親のソーシャル・キャピタルと子のソーシャル・キャピタルとの間には何らかの関係があるのではないか。
- ・身近に「地域資源」に対する共有意識をもち、その維持向上のための取り組みを実践している人(祖父母や親)が身近にいたり(同居)、実際の活動に参加した経験を持つことが個人の活動への参加意向や利他意識に影響するのではないか。
- ・人口減少や若者の流出、核家族化やライフスタイルの変化、地域間移動の容易さに伴う共同体意識の低下等の要因が、ソーシャル・キャピタルや活動の世代間継承の阻害要因になっているのではないか。



プロジェクトの実施内容

全国を対象としたWEBアンケート調査と、個別事例のケーススタディから上記仮説を検証する。WEBアンケート調査では、主に個人レベルでのソーシャル・キャピタルの継承可能性とその促進要因・阻害要因を分析し、現地ケーススタディでは、実際の事例から活動の継承促進要因・阻害要因を明らかにする。

○WEBアンケート調査(京都大学チーム)

28年度と29年度の2段階でWEBアンケート(5000サンプル程度を想定)を実施。

質問項目の例

- 〔個人のソーシャル・キャピタル〕
- ▶一般的に、人は信用できると思いますか。
- ▶あなたは、地域活動にどの程度参加していますか。
- 〔親のソーシャル・キャピタル〕
- ▶あなたが子供の頃、あなたのご両親や祖父母は地域活動にどの程度参加していましたか。
- ▶あなたが子供の頃、あなたのご両親や祖父母は人助けをすることについてどのような考えを持っていましたか。
- 〔仮説検証のための設問〕
- ▶あなたが子供の頃、地域活動に両親や祖父母と一緒に参加した経験はどのくらいありますか。
- ▶現在あなたが居住している地域は、子供の頃に住んでいた地域と同じですか。

アンケート結果から、ソーシャル・キャピタルの高い親を持つ人とそうでない人のソーシャル・キャピタルの違い等を分析し、世代間継承に関する仮説や、継承の阻害要因に関する仮説の妥当性を検証し、世代間継承の実態を解明。

○現地ケーススタディ(和歌山大学チーム)

以下の4地域を中心に現地ヒアリング、簡易アンケート等を実施するとともに、和歌山市(28年度)及び宮崎市(29年度)において現地での研究集会(ワークショップ)を開催。

現地ケーススタディの対象地域

- 滋賀県長浜市(京都大学大学院ゲノム医学センターが「ながはま0次コホート事業」を実施しているほか、長浜まちづくり会社等による積極的なエリアマネジメント活動を実施)
- 宮崎県宮崎市(地元高校生が参加する「住民創造型のワークショップ」を開催するなど、世代間交流によるまちづくりが進められている)
- 岡山県倉敷市(美観地区を中心に地域住民、行政とが連携してまちづくりを実施)
- 和歌山県和歌山市(和歌山大学の学生が商店街組合と連携しながら、様々なまちづくり活動を実施)

現地ヒアリング等から、エリアマネジメント活動等の世代間継承の現状や課題や世代間での継承に向けて取り組んでいる事項(活動や継承が十分に行われていない事例ではその背景や要因)等を明らかにし、継承の促進方策等について検討・考察。



「多世代型交流カフェ「cafe55」

現在、WEBアンケート調査を実施中。また、2月4日に一般市民を交えたワークショップを開催し、世代交流の現状・課題・解決策について議論を行ったところ、①教育の場と世代間継承を結び付けていく、②お祭り、運動会、クリスマス会等も世代間継承を促す場であり活用可能、③行きつけのカフェ・居酒屋も交流の場として有効、といった世代間継承方策の提案があった。



和歌山市内でのワークショップ

今後、引き続き二つの調査を進め、調査結果から得られた①個人レベルでのソーシャル・キャピタルの継承促進のための知見、②実際のエリアマネジメント活動等における活動継承促進のための知見、を整理し、持続可能な多世代共創活動の実現のための方策の提示を目指す。